



昭和36年5月のゲバントハウスオーケストラ公演について掲載した『週刊朝日』から

「…郡山市の人口は10万人ちょっと、興行の常識からは千人どまりがいいところだが、入場者はその倍を上回った。…全く奇跡といたいところだ。だが、郡山市では不思議でもなんでもなし。“東北のウィーンだからな”とは少々キザだが、とにかく音楽都市なのである」



③



①



②



⑤

※ゲバントハウスオーケストラは民間のオーケストラとしては世界最古で、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、ワーグナー、シュトラウスらが指揮者として活躍したオーケストラです。

- ①当時の金透小学校日本一受賞記念コンサート(昭和37年ごろ)
- ②二十万人コーラス(昭和40年)
- ③映画「百万人の大合唱」(昭和46年)
- ④郡山の合唱界を牽引する安積黎明高校(旧安積女子高校)
- ⑤飛躍めざましい郡山第二中学校合唱部と管弦楽部



音楽都市への転機となった『NHK交響楽団公演』(昭和29年)

特集
音楽都市こおりやま

音楽に宿る郡山魂を未来へ

音楽都市宣言

「東北のウィーン」と称され、東北を代表する音楽都市となった郡山。背景にあったのは、音楽とまちを愛した多くの人々の行動でした。市民の皆さんが築き上げてきた、この「音楽都市こおりやま」を未来へつなぐため、郡山市は音楽都市を宣言しました。

♪音楽都市への転機
毎年多くの音楽団体や個人が全国大会などで活躍する音楽都市こおりやま。昨年度も、市内の12団体、22個人、計441人もの方々が全国大会などで活躍しました。

♪市民の思いが一つに
この音楽都市への転機は、今から遡ること50有余年、昭和29年の「NHK交響楽団公演」と言われています。会場となったのは、国鉄郡山工場大食堂。当時、本格的なオーケストラの演奏会を開催できる会場がなかった郡山。しかし、戦後、かつてない困窮の時代の中で、心の拠り所となった音楽への市民の切望と情熱が、食堂でのオーケストラ演奏会という行動を起こさせ、4千人もの大観衆に大きな感動を与えました。

しかし、この演奏会を機に「音楽(文化)の途中下車」を合言葉とした、文化誘致運動が市民のなかで盛り上がり、本格的な演奏会が可能な施設を望む声が高まってきました。このような市民の行動が世論や行政を動かし、市民から寄附を募る「愛市運動」へとつながりました。そして、昭和33年10月、当時東北一の設備を誇る「市民会館」が誕生。翌11月には「第11回全日本合唱コンクール」が開催され、全国から多数の合唱団が来郡し、郡山の名が全国へと広がっていきました。

♪音楽がまちを変えた

コンクールに東北代表として出場した国鉄郡山工場合唱団が、3位に入賞。このコンクールは県内の合唱運動に影響を与え、「合唱王国ふくしま」の基盤を築くことになったのです。また、器楽活動も昭和20年代

後半から多くの団体による演奏会が盛んに行われ、学校音楽では昭和36年、金透小学校が全国器楽合奏コンクールで第1位となり、翌年も連続受賞するなど現在の学校音楽活動の先駆けとなりました。

このような各分野での音楽活動や「よい音楽を安く多くの人に」とのスローガンのもとで進められた勤労者音楽協議会(労音)の企画などにより、市民会館を会場とした著名団体の公演や世界的な音楽会が続き、地方都市には珍しい動きとして、マスコミの注目を集めました。そして、当時の週刊誌などで「東北のウィーン」と称されることになっていきました。その後、市民の音楽活動は昭和39年の「十万人コーラス」運動へと発展、昭和40年には郡山市と安積郡等との合併を機に二十万人コーラ



市民の情熱が完成させた「市民会館」(昭和33年～平成2年) <現在の龍山地区駐車場>

音楽都市宣言

美しいメロディー
心おどるリズム
音楽がまちにあふれ
人の輪が広がり心をつなぐ

私たちは音楽を愛し
人と人が織りなすハーモニーを奏で
明るい笑顔が輝く
魅力あるまち
「こおりやま」を創ります

「明日につなごう ころのハーモニー」

郡山市は、
ここに「音楽都市」を宣言します。

平成20年3月24日
郡山市

5/24(土) 「音楽都市宣言」記念式典

湯浅譲二さん(郡山出身の世界的作曲家)、本名徹次さん(郡山出身の世界的指揮者)、鈴木武司さん(郡山市音楽連盟会長)、小針智意子さん(郡山第二中学校合唱部顧問)たちによるパネルディスカッションや音楽団体の演奏会をとおして、郡山の音楽を楽しみませんか!!



本名徹次さん



湯浅譲二さん

時間 午後1時30分
※自由参加、入場無料
会場 市民文化センター大ホール
問 文化課 ☎ 924-2661